

新秋地総第 5 4 2 号
令和 6 年 6 月 1 7 日

秋葉区自治協議会
会長 中島 純 様

秋葉区長 長崎 忍
(秋葉区役所地域総務課)

区政運営にかかる評価について（参考意見聴取）

本市では、年度当初に区長による「区組織目標」を策定し、その方針に基づいて、区政運営の重点取組事項を設定しています。また年度末には、その取り組みに対して、区長による自己評価を行い、次年度以降の方針策定等に反映させております。

この自己評価を補うとともに、効果・効率的な事業実施や次年度予算の編成の参考にさせていただくため、貴自治協議会に下記事項について区長が行った自己評価に対する意見を求めます。

記

- ・ 令和 5 年度 秋葉区組織目標 資料 1 - 1
- ・ 令和 5 年度 秋葉区組織目標に掲げた重点目標の指標一覧 資料 1 - 2

※参考資料

- ・ 令和 6 年度 秋葉区組織目標 資料 1 - 3
- ・ 令和 6 年度 秋葉区組織目標に掲げた重点目標の指標一覧 資料 1 - 4

組織名	秋葉区	部長	区長 長崎 忍
組織の目的・方向性	秋葉区では、区の将来像である「里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち」を実現するため、秋葉区の特徴を生かしたまちづくりを推進します。		
(参考) 関連する総合計画における政策指標*	<ul style="list-style-type: none"> ・職業を理由とした県外との転出入数 ・市民の声をしっかりと聴く体制が整っていると思う市民の割合 ・住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができると思う高齢者の割合 ・新潟市は子育てしやすいまちだと思える保護者の割合 ・観光入込客数 ・地域団体、民間事業者、学校など多様な主体との協働数 		

※政策指標…目指す都市像の実現や、総合指標の目標達成を図るうえで、各分野において特に重視する指標。各分野の政策指標は市役所全体で共有し、組織横断で目標達成に向けて取り組みます。

秋葉区組織目標

<p>秋葉区では、新潟市総合計画 2030、区ビジョンまちづくり計画や地域福祉推進計画に基づいて、時代の潮流を踏まえつつ、区の将来像である「里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち」を実現するため、秋葉区の特徴を生かした「環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち」、「やさしさがあふれる楽しく元気なまち」、「歴史と個性を活かすまち」、「可能性を生み出し、育て、活かすまち」を目指します。</p> <p>この方針のもと、今年度は次の5つの目標に重点的に取り組みます。</p> <p>重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「アキハスムプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特徴や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図ります。また、移住モデル地区による移住促進へ向けた取り組みを支援するとともに、市民活動に取り組む新たな人財を発掘・育成することで、地域や住民とともに魅力あるまちづくりを進めます。 2 区役所の窓口サービスにおける市民満足度の一層の向上を図ります。 3 「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の理念を広く区民に周知・普及しながら、地域住民や関係機関と連携・協力して健康づくりや福祉課題を解決する取り組みを推進します。 4 地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。 5 新津川や能代川沿いの遊歩道のほか、秋葉公園内の環境整備を市民と協働で行います。また、昭和公園再整備の方向性を地域団体と共に検討を行います。
--

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

	重点目標の達成状況	目標数	5 件	達成数	5 件
取組結果	<p>【重点目標 1】 達成状況（見込み）＝評価 3（目標どおり達成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7 月 29 日に移住相談窓口を開設し、移住コンシェルジュ 2 名を配置しました。 ・ 11 月に移住に関する団体・個人とのネットワーク会議を開催 ・ 12 月に移住コンシェルジュ P R チラシを作成し、区内全戸配布 				
	<p>【重点目標 2】 達成状況＝評価 3（目標どおり達成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民目線に立った利便性の高い窓口サービスを提供できるよう課内研修の実施や、窓口改善に取り組んだ結果、窓口アンケートの平均点 4.5 点の評価となりました。 				
	<p>【重点目標 3】 達成状況（見込み）＝評価 （目標どおり達成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちを目指し、認知症への理解を深めるため、講演会を開催するとともに、区だより、FM にいつ、ポスター等掲示による啓発活動を行いました。 ・ 障がい者理解講座を開催し、障がいへの理解を深め地域で支える仕組みづくりを考える機会となりました。 ・ 子育て講座、子育てサポーターの訪問は計画通り進めることができ、妊娠期からの子育て支援を行いました。 ・ 出張「妊娠・子育てほっとステーション」を新たに始め、子育て情報の発信を強化しました。 ・ 子どもを含めたフレイル予防事業、小児生活習慣病予防事業については、関係する機関と計画通り進めることができました。特に子どもを対象にしたラジオ体操は、地域と連携して実施しました。 				
	<p>【重点目標 4】 達成状況（見込み）＝評価 3（目標どおり達成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● わくわく石油楽習事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 区内の小学校 5 校から 6 年生 269 人が参加 ・ 石油の世界館友の会と連携を図ったほか、各小学校で事前学習を行い里山施設への理解及び関心の向上を図りました。 ● 里山未来創造事業（マウンテンプレーパーク） <ul style="list-style-type: none"> ・ 全 36 回開催 1,265 人（平均 35.1 人）の子どもが利用 ・ 区だよりの発信に加え、PR チラシを新規作成し、区内全小学校に配布しました。 * 前期は夏場の熱中症警戒アラート発表により屋外での活動が避けられたため、また、後期は実施回数の 2/3 が雨天等となったため利用者が減少しました。 ● アキハ「鉄道物語」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間 12,582 人（平均 65.19 人/日）が利用 ・ S L 再運行に向け、S L や列車のラッピングポストによる機運の醸成を図りました。 ・ J R、商店連、観光協会等との連携により、鉄ぶら抽選会を実施しました。 ・ にいつ鉄道商店街と連携し、大宮での鉄道イベントに参加し P R を行いました。 ・ イベント限定のショップカードによる認知度の向上及び利用促進を図りました。 ● 園芸推進事業（日本ボケ展） <ul style="list-style-type: none"> ・ 来場者数 5,050 人 ・ 新聞掲載やポスター配布箇所を増やす等の周知を行い、日本ボケ協会との連携により実施しました。 * 開催期間中の悪天と寒気により来場者が減少しました。 				

	<p>【重点目標 5】 達成状況見込み＝評価 3（目標どおり達成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民協働での環境整備活動について関係団体と協議し、新津川クリーン作戦などの開催を実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> ◇新津川水仙球根植栽；11月3日 参加者 66名 ◇新津川クリーン作戦；11月5日 参加者 290名 ◇秋葉公園クリーン作戦；11月18日（雨天中止） ・昭和公園再整備の方向性を検討するワークショップの開催に向けて、支援業務委託契約を締結するとともに、住民参加型のワークショップを開催し、地域住民の意見を反映させた公園の再編案を作成しました。 <ul style="list-style-type: none"> 第1回目 WS R5. 10. 29 第2回目 WS R5. 11. 29 第3回目 WS (R6. 2. 28)
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の方向性</p>	<p>【重点目標 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS 等により移住者目線で区の魅力や暮らしやすさを発信し、移住したいひとへアプローチをはかる ・ 移住後の不安や相談できる交流の場をつくり、移住者のフォローをはかる。 <p>【重点目標 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民満足度の向上に向け、引き続き、窓口サービスの推進や改善に取り組み、より一層信頼していただける区役所づくりに取り組んでいきます。 <p>【重点目標 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の基本理念である「人がつながりともに支え合う やさしいまち」を目指し、地域住民や関係機関と連携・協力し、秋葉区の特性を活かした、高齢者・障がい者・子育て・健康づくりなどの各支援施策・事業に取り組みます。 ・ 認知症に関する講演会の開催のほか様々な啓発事業を継続し、認知症への理解が深まる機会の提供に努めます。 ・ 障がい者理解講座を開催し、障がいへの理解を深め支援者・理解者の輪を広げます。 ・ 各種子育て支援事業や子どもを含めたフレイル予防事業、小児生活習慣病予防事業を通じて、子育て支援の充実や健康づくりを進めます。 <p>【重点目標 4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報、実施運営などの改善により実施した事業内容を、アンケートなどによる振り返りを行い次年度事業の企画に反映させることで各利用者の増を図ります。 <p>【重点目標 5】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民協働での環境整備活動により多くの方から参加いただき、持続的な活動とするためには、担い手となる子育て世代や学生・若者への周知・啓発が重要であり、関係団体と連携しながら多方面での広報・周知活動を進めます。 ・ ワークショップを通じて昭和公園再整備の方向性を議論し、子育て世代を含めた地域の皆さまから親しまれる公園整備を目指します。

令和5年度 秋葉区組織目標に掲げた重点目標の指標一覧

秋葉区 組織 目標	担当所属	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
			取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)	概要			
1	地域総務課	「アキハスムプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図ります。移住モデル地区による移住促進へ向けた取り組みを支援するとともに、市民活動に取り組む新たな人財を発掘・育成することで、地域や住民とともに魅力あるまちづくりを進めます。	移住相談窓口での相談件数	65件	21件	アキハスムプロジェクト Vol.3	<ul style="list-style-type: none"> ・移住、定住促進に向けた相談窓口開設 ・移住に関する相談対応のためコンシェルジュを設置し、移住・定住の推進を強化 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・7月29日、「八畳二間」に移住相談窓口を開設し、移住コンシェルジュ2名を配置した。 ・3月末までに21件の相談あり ・移住相談以外に視察見学等対応 ・12月にコンシェルジュPRチラシを作成し、区内全戸配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等により移住者目線で区の魅力や暮らしやすさを発信し、移住したいひとへアプローチをはかる ・移住後の不安や相談できる交流の場をつくり、移住者のフォローをはかる
			コンシェルジュの人的ネットワーク構築と会議開催	9回	10回		<ul style="list-style-type: none"> ・移住相談窓口を市特設webサイトやSNSにより情報発信 ・ネットワーク構築により相談者への対応を強化 			
2	区民生活課	区役所の窓口サービスにおける市民満足度の一層の向上を図ります。	窓口アンケートの実施 窓口アンケートの平均点(点)	平均4.5点以上	平均4.5点	窓口アンケートの実施	アンケート実施し、窓口サービスにおけるニーズを把握し、市民満足度を向上に努めます。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口アンケートの平均点は4.5点となり、目標は達成した。 ・設問の内、職員の説明については4.7点となり、7つの設問の中で最も高い点数となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口アンケート結果から庁舎の案内表示が目標数値以下であったため、案内表示の改善について、区プロジェクトチームと共に検討していきます。

令和5年度 秋葉区組織目標に掲げた重点目標の指標一覧

秋葉区 組織 目標	担当所属	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
			取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)	概要			
3	健康福祉課	「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の理念を広く区民に周知・普及しながら、地域住民や関係機関と連携・協力して健康づくりや福祉課題を解決する取り組みを推進します。	障がい者理解講座参加者アンケートの理解度(%)	「とても理解が深まった」「理解が深まった」が80%以上	81.5% (理解講座)32人参加 (支援講座)5人参加	・障がい者理解講座 ・保護者支援講座	・障がいへの理解を深め、地域で支える仕組みづくりを考える機会とする ・療育教室などを利用している子どもの保護者を対象に、悩みや心配ごとを共有できる仲間づくりを推進することで、不安感や孤立感の解消を図る	○	・障がい者理解講座は1月14日に実施し、32人が参加した。 ・保護者支援講座は9月20日から10月25日の間、全5回の日程で実施し、5人が参加した。	・R6年度も精神障がい、発達障がい等をテーマに障がいへの理解を進めていく。
		子育てに関する講座等の開催回数(回)	小さな森の広場75回 パパママ銭湯24回 デイケアルームHUGママ24回 育ちの森講座41回 合計 164回	合計 165回 合計1,563人参加	・子育てサロン ・産前産後リフレッシュ事業 ・子育て講座	・地域で安心して子育てを行うための、ライフステージに応じた切れ目ない支援 ・上記に関する情報の発信(当該事業や育ちの森で開催する子育て講座の実施回数など)	○	・小さな森の広場を76回(749人参加)、パパママ銭湯を24回(245人参加)、デイケアルームHUGママを24回(156人参加)、育ちの森で開催する講座を41回(413人参加)、合計165回(1,563人参加)開催した。	・引き続き、予定通り各種事業を進める。	
		子育てサポーターの訪問件数(件)	320件	280件	・子育てサポーター訪問事業	・産前と産後に各1回の訪問を実施し、地域の子育て情報の提供や絵本のプレゼントを行う。 ・目標値は母子手帳交付者の80%で、新規訪問件数。 ・前年度に産前訪問している場合等は、産後訪問を計上しない。	△	・子育てサポーターの訪問件数は、産前、産後合わせて280件実施した。 ・少子化の影響で令和5年度の母子手帳交付件数は393件に減少した。 ・転居や2人目の出産を理由に訪問に同意しない方が増え、訪問希望者数も297件に減少(75.6%)した。	・訪問件数は減少したが、関係機関のフォローに繋がれたケースもあったため、引き続きサポーターによる産前産後の母子支援に努める。 ・母子手帳交付者(訪問対象者)が減少しており、目標値の見直しが必要。	
		出張「妊娠・子育てほっとステーション」等子育て情報の発信件数(回)	育ちの森12回 たんたん・どんぐり・ぼかぼか 各1回 合計15回	合計 17回 合計124人参加	・子育て支援情報の発信	・保育コンシェルジュ等が、子育て支援センターなどへ出向き、入園や子育てについて相談に応じる	○	・育ちの森12回(103人参加)、子育て支援センターたんたん(4人参加)、どんぐり(7人参加)、ぼかぼか(3人参加)各1回の他、当初予定していなかった療育教室なのはなからの依頼が2回(7人参加)あり、計17回(124人参加)開催した。	・突発的な開催依頼にも対応することができた。 ・今後もアウトリーチ型で、ほっとステーションを積極的にPRしていく。	
		フレイル予防事業の参加延べ人数(人)	1,000人	1,232人	・フレイル予防教室、及び講座の開催 ・地域のイベントでのフレイル予防啓発事業 ・運動普及のため住民サポーターへの研修開催	・子どもを含めたフレイル予防、生活習慣病予防の普及・啓発(ロコモ予防の取り組み団体への支援、小児生活習慣病予防健診後の講座の開催)	○	・参加人数延べ1,019人。子どもを含めたラジオ体操普及については昨年度からの継続に加え、新規5団体(新聞児童クラブ・東部民協等)で実施。ラジオ体操100日達成者は185人。 ・10月26日に住民サポーターへの研修を実施。28人参加。	・引き続き、地域の茶の間や地域のイベントなど住民が集まる様々な機会、ラジオ体操普及を含めたフレイル予防の啓発を行いながら事業を進める。 ・次年度についても地域の茶の間や各コミ協へ周知、連携していく。	
		事業参加者の生活習慣の重要性に対する理解度(%)	80%	93%	小学校6年生が対象 ・ジュニアドック(生活習慣病健診) ・からだづくり講座	・11日程(土曜含む)で実施したジュニアドック(生活習慣病健診)は89人が受診し、結果をすべて通知した。 ・からだづくり講座は、11月23日に開催し親子22組55人が受講した。 ・生活習慣に関するアンケートの結果では全項目で重要性に対する理解が8割を超えた。	○	・引き続き、複数日でのジュニアドックの開催と家族ぐるみで生活習慣の重要性を学ぶからだづくり講座を開催する。 ・また本事業の結果(課題)を小学校や小学生の保護者、他事業に参加する区民へ広く周知していく。		

令和5年度 秋葉区組織目標に掲げた重点目標の指標一覧

秋葉区 組織 目標	担当所属	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
			取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)	概要			
4	産業振興課	地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。	参加者アンケートにおける里山施設等への再訪意向(%)	50%以上	50.4%	・わくわく石油楽習事業	・石油の世界館友の会と連携し、里山にある石油資源を活用した小学校6年生向けの講座の実施 ・里山文化(自然、施設、歴史など)に関する事前学習の実施 ・通常の学校事業に即したテーマ(地層)を学習内容に加え、より地域を身近に感じてもらう ・講師と連携し、子ども向け教材の新規作成を検討	△	・事前学習も含め区内小学校5校から6年生269人が参加 ・今年度初めての試みとして、各小学校に事前学習を行った	・後期の事業実施及びアンケートの集計内容を基に、次年度事業への反映を図る ※再訪意向結果の「どちらともいえない」42.9%の取り込みを図る
			Akihaマウンテンプレーパークの1日平均利用者数(人)	50人	35.1人	・里山未来創造事業	・里山にある秋葉公園の自然を活かした、子ども達が自由に遊べる場「Akihaマウンテンプレーパーク」の開設 ・SNS等を活用した子育て世代への発信力の強化 ・遊びの内容(手法や遊具)の充実		・36回開催、子どもは1,265人が利用(※大人931人) ・区だより、PRチラシを区内全小学生に配布等広報を強化 ・前期は熱中症警戒アラート発表により、利用者が減少 ・後期は悪天候の日が重なり(12回/18回が雨天又は曇り)利用者数が伸びなかった	・SNS等の発信を強化し、利用者増加を図る ・利用者増加の底上げを目指し、遊び内容の充実を検討する
			観光案内所「あ！キハ」1日平均利用者数(人)	60人	65.19人	・アキハ「鉄道物語」	・JRや商店街連合会、観光協会、鉄道資料館と連携した新津駅東口における観光案内所の開設 ・レンタサイクルの貸し出し ・鉄道資料館による開館40周年記念特別展との連携 ・鉄道に関連した取り組みや事業への支援		・SL再運行に向け、SLや列車のラッピングポストによる機運の醸成 ・鉄ぶら抽選会との連携 ・レンタサイクルの運営 ・にいつ鉄道商店街と連携し、大宮でのイベント参加によるPR ・イベント限定のショップカードによる認知度の向上及び利用促進 ・鉄道資料館の開館40周年との連携	・SL25周年をはじめ連携事業の継続による、認知度向上と利用者拡大に向けた取り組みを図る
			日本ポケ展への来場者数(人)	6,500人	5,050人	・園芸推進事業	・日本ポケ展の開催支援 ・他団体による企画展との同時開催		・新聞掲載やポスター配布箇所を増やす等の周知(道の駅42か所へ配布) ・日本ポケ協会との連携により実施 ・小須戸ひな・町屋めぐり、秋葉区ひな・お宝めぐりと連携 ・開催期間中の悪天と寒気により来場者が伸びなかった	・花き関連事業、区内開催事業との連携によるPR強化を図る ・SNS等の発信を強化し、利用者増加を図る
5	建設課	新津川や能代川沿いの遊歩道のほか、秋葉公園内の環境整備を市民と協働で行います。 また、昭和公園再整備の方向性を地域団体と共に検討を行います。	参加人数(人)	350	356	人と自然が調和した美しい景観の保全	・市民と協働で遊歩道周辺や秋葉公園の除草や刈払を実施 ・昭和公園再整備の方向性を地域団体とのワークショップを開催します。	○	・市民協働事業実施 水仙百年物語 (11月3日)・・・参加者66名 新津川クリーン作戦 (11月5日)・・・参加者290名 秋葉公園クリーン作戦 (11月18日)・・・雨天中止	・市民協働での環境整備活動により多くの方から参加いただき、持続的な活動とするためには、担い手となる子育て世代や学生・若者への周知・啓発が重要であり、関係団体と連携しながら多方面での広報・周知活動を進めます。
			ワークショップの開催(回)	3	3					

組織名	秋葉区	部長	区長 長崎 忍
組織の目的・方向性	秋葉区では、区の将来像である「里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち」を実現するため、秋葉区の特徴を生かしたまちづくりを推進します。		
(参考) 関連する総合計画における政策指標*	<ul style="list-style-type: none"> ・職業を理由とした県外との転出入数 ・市民の声をしっかりと聴く体制が整っていると思う市民の割合 ・住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができると思う高齢者の割合 ・新潟市は子育てしやすいまちだと思える保護者の割合 ・観光入込客数 ・地域団体、民間事業者、学校など多様な主体との協働数 		

※政策指標…目指す都市像の実現や、総合指標の目標達成を図るうえで、各分野において特に重視する指標。各分野の政策指標は市役所全体で共有し、組織横断で目標達成に向けて取り組みます。

秋葉区組織目標

秋葉区では、新潟市総合計画 2030、区ビジョンまちづくり計画や地域福祉推進計画に基づいて、時代の潮流を踏まえつつ、区の将来像である「里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち」を実現するため、秋葉区の特徴を生かした「環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち」、「やさしさがあふれる楽しく元気なまち」、「歴史と個性を活かすまち」、「可能性を生み出し、育て、活かすまち」を目指します。

この方針のもと、今年度は次の5つの目標に重点的に取り組みます。

重点目標

- 1 「アキハスムプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特徴や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図るとともに、移住者増のための仕組みづくりに取り組みます。
- 2 区役所の窓口サービスにおける市民満足度の一層の向上を図ります。
- 3 「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の理念を広く区民に周知・普及しながら、地域住民や関係機関と連携・協力して健康づくりや福祉課題を解決する取り組みを推進します。
- 4 地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。また、新潟薬科大学等との連携により互いの資源や成果を共有するなど交流を深め、教育機関の英知を活かした施策展開や地域との連携につなげることで、質の高いまちづくりを進めます。
- 5 新津川や能代川沿いの遊歩道のほか、秋葉公園内の環境整備を市民と協働で行います。また、秋葉公園リニューアルの方向性を区民の声をしっかりと聴きながら検討を行います。

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

取組結果	重点目標の達成状況	目標数		達成数	
今後の方向性					

令和6年度 秋葉区組織目標に掲げた重点目標の指標一覧

秋葉区 組織 目標	担当所属	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
			取組指標	R6目標	R5結果	取組名称(事業名)	概要			
1	地域総務課	「アキハスムプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図るとともに、移住者増のための仕組みづくりに取り組みます。	移住検討者及び移住者からの相談件数	30件	21件	アキハスムプロジェクトVol.3	・AKIHA移住コンシェルジュを設置し、秋葉区への移住検討者からの相談対応のほか、移住者からの相談にも対応			
			移住コンシェルジュの人的ネットワーク構築と会議開催	12回	10回		・移住相談窓口を市特設webサイトやSNSにより情報発信 ・ネットワーク構築により相談者への対応を強化			
2	区民生活課	日常業務の改善を進めるとともに、効率的な業務を行うため、職員提案を促し窓口業務の改善に努め、市民満足度の一層の向上を図ります。	窓口アンケートの実施	平均点4.5点以上		窓口アンケートの実施	窓口アンケートにより、市民ニーズを把握し市民満足度の向上を図ります。			
			窓口アンケートの平均点(点)							
3	健康福祉課	「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の理念を広く区民に周知・普及しながら、地域住民や関係機関と連携・協力して健康づくりや福祉課題を解決する取り組みを推進します。	障がい者理解講座の参加人数(人)	40人		・障がい者理解講座 ・保護者支援講座	・障がいへの理解を深め、地域で支える仕組みづくりを考える機会とする ・療育教室などを利用している子どもの保護者を対象に、悩みや心配ごとを共有できる仲間づくりを推進することで、不安感や孤立感の解消を図る			
			子育てに関する講座等の開催回数(回)	小さな森の広場79回 パパママ銭湯24回 デイケアルームHUGママ24回 育ちの森講座41回 合計 168回		・子育てサロン ・産前産後リフレッシュ事業 ・子育て講座	・地域で安心して子育てを行うための、ライフステージに応じた切れ目ない支援 ・上記に関する情報の発信 (当課事業や育ちの森で開催する子育て講座の実施回数など)			
			子育てサポーターの訪問希望割合(%)	母子手帳交付件数の80%以上		・子育てサポーター訪問事業	・産前と産後に各1回の訪問を実施し、地域の子育てで情報の提供や絵本のプレゼントを行う。 ・昨年減少した訪問希望者数を回復させるため、区だよりやSNS等を活用し、事業の周知を図る。			
			出張「妊娠・子育てほっとステーション」による子育て情報等の発信件数(回)	育ちの森12回 たんたん・どんぐり・ほかほか 各1回 合計15回		・子育て支援情報等の発信	・保育コンシェルジュ等が、子育て支援センターなどへ出向き、ほっとステーションのPRや、入園、子育てについてその場で相談に応じる。			
			フレイル予防事業の参加延べ人数(人)	1,100人		・フレイル予防教室、及び講座の開催 ・地域のイベントでのフレイル予防啓発事業 ・運動普及のため住民サポーターへの研修開催	・子どもを含めたフレイル予防に取り組む(フレイル予防の取り組み団体への支援)			
			事業参加者の生活習慣の重要性に対する理解度(%)	90%		・小学校6年生が対象 ・ジュニアドック(生活習慣病健診) ・からだづくり講座	・子どもの頃より自分の健康に関心を持ち、家族ぐるみで生活習慣の振り返りを行う。			

4	産業振興課	地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。	参加者アンケートにおける里山施設等への再訪意向(%)	50%以上		・わくわく石油楽習事業	・石油の世界館友の会と連携し、里山にある石油資源を活用した小学6年生向け講座の実施 ・里山文化(自然、施設、歴史等)に関する事前学習の実施 ・学校教科に即したテーマ(地層)を内容に加え、より地域を身近に感じてもらう		
			Akihaマウンテンプレイパークの1日平均利用者数(人)	50人		・里山未来創造事業	・里山にある秋葉公園の自然を活かした、子ども達が自由に遊べる場「Akihaマウンテンプレイパーク」の開設 ・SNS等を活用した子育て世代への発信力の強化 ・遊びの内容(手法や遊具)の充実		
			観光案内所「あ！キハ」1日平均利用者数(人)	60人		・アキハ「鉄道物語」	・JRや商店街連合会、観光協会、鉄道資料館と連携した観光案内所(新津駅東口)の開設 ・レンタサイクルの貸し出し ・鉄道資料館との連携企画の実施 ・鉄道に関連した取り組みや事業への支援		
		新潟薬科大学等との連携により互いの資源や成果を共有するなど交流を深め、教育機関の英知を活かした施策展開や地域との連携につなげることで、質の高いまちづくりを進めます。	大学等との連携事業数	8事業		・新潟薬科大学等との連携事業	新潟薬科大学等の教員、学生との連携による事業の実施		
5	建設課	新津川や能代川沿いの遊歩道のほか、秋葉公園内の環境整備を秋葉区SDGSトライとして市民と協働で行います。	参加人数(人)	350		人と自然が調和した美しい景観の保全	・市民と協働で遊歩道周辺や秋葉公園の除草や刈払いを実施 ・秋葉公園リニューアルに向けて市民からの意見を聴取		